



この人

「手弁当」での修復作業から 晴れて国の登録有形文化財に

上藻別駅逓保存会



左から高橋勝美さん、増田平作さん、小玉勝信さん、林包昭さん、池澤康夫さん、目黒将征さん

「東

洋一の金山」と呼ばれた鴻之舞鉾山へ紋別市街から向かう途中にあるのが、在りし日の姿によみがえった上藻別駅逓です。輸送手段として、まだ人馬が使われていた大正時代に建てられた歴史の建造物で、駅逓としての使命を終えた後も旅館や民家として長く利用されましたが、廃屋となつて朽ち果てた状況を見かねて、手持ちの資金と労力を持ち寄つて「手弁当」で修復作業に当たつたのが、鴻之舞にゆかりのある上藻別駅逓保存会の池澤康夫会長、林包昭さん、小玉勝信さん、増田平作さん、故・垣本稔さんの「駅逓5人衆」でした。

平成17年5月に一般公開を始めて、早や4年目。内部には、多くの人々から寄贈された鴻之舞にちなんだ展示物が所狭しと並び、往時を懐かしむ市民や関係者の姿が絶えません。学生の教育の場や、映画ロケのセットとしても活用され、今年9月に、晴れて文化庁が定める登録有形文化財に認定されました。

来訪者への対応も、保存会が毎日交代で行ってきました。これまでを振り返り、池澤会長は「寒さ厳しい猛吹雪の中でも作業をしました。ただ、鴻之舞の資料館にする大きな目標があったので、苦勞とは感じませんでしたよ」と笑います。

かつて鉾山の坑道内を走つたデューゼル機関車が、敷地内にレールを敷き、今秋から展示を始めました。鉾山技術者だった林さんも「これを作るのが夢だったんだ。もう引退してもいいよ」と、とびつきの笑顔を見せます。小玉さんも「人集めに苦勞したけど、頑張つて来れた」、増田さんも「観光関係の人も来てくれるようになった」と喜びます。

一昨年には高橋勝美さんが、今年4月からは目黒将征さんがメンバーに加わりました。今回の有形文化財の登録を受けて、6人は「国に認めてもらえた。さらに大勢の人に楽しんでもらえる施設にした」と口を揃え、駅逓の更なる飛躍を目指しています。